第5回 テキストの挿入と新しい要素の追加

今回の演習の目的は次の通りである。

- クリックした位置を SVG の図形内に表示する
- DOM ツリーに新しい要素を追加する
- 初期化の段階で要素を作成する
- 自前でアニメーションを作る
- JavaScript の配列とオブジェクトの取り扱い
- 自前のライブラリーを利用したプログラムの書き直し

課題に(必須)と書かれたものを最低行うこと。それ以外の課題はいくつか選択してよい。

課題 1 (SVG 内にテキストを表示) 演習のビデオ1を見て次の問いに答えよ。

- 1. (**必須**)「クリックした位置を SVG 内に表示」を実行し、位置を表示する text 要素内に空白がないとエラーが起こることをコンソールで確認せよ。
- 2. (**必須**)28 行目にある rect 要素を 23 行目にある circle 要素の前に置くと起こる不備な点を 指摘せよ。
 - •
 - •
 - •
- 3. SVG リスト 7.6 では同じ text 要素内に空白がないがエラーが起きないことを確認せよ。
- 4. 図形を変えてその位置を示す属性の値を表示するものを作成せよ
- 5. (**必須**)「直線を引く」を実行し、自分の言葉で解説をする。また、ソースコードと DOM ツリーに変化があるか確認せよ。
- 6. 配布資料 155 ページ図 7.14 にあるような色を変えた直線が引けるものを作成せよ。
- 7. 長方形をドラッグで描くものを作成せよ

課題 2 (プログラムで図形のデータを計算する) 演習のビデオ 2 を見て次の問いに答えよ。

- 1. (必須)「サイクロイドを描く」を実行せよ。
- 2. (必須) 正7角形を描け。
- 3. (必須)「サイクロイドのアニメーション」を実行せよ。
- 4. 一年時の Processing で描いたアニメーションを自前のアニメーションの方法で移植せよ。また、両者のコードの比較をせよ。

課題 3 (配列とオブジェクト) 演習のビデオ3の前半を見て次の問いに答えよ。

- 1. (必須) ビデオを参考にして、コンソールで適当な配列を操作した結果を報告せよ。コンソールの画面のキャプチャをつけること。
- 2. (**必須**) ビデオを参考にして、コンソールで適当なオブジェクト (都道府県名をキーに都道府 県庁所在地を値、日本語の色名をキーにして英語の色名を値にする) を操作した結果を報告 せよ。コンソールの画面のキャプチャをつけること。

課題 4 (自前のライブラリで今までのコードを書き直す) 演習のビデオ 3 の後半を見て次の問いに答えよ。

- 1. (必須) 関数群を利用して「ドラッグして直線を引く」を書き直せ。
- 2. (必須) 関数群を利用したときと利用しなかったときのコードの比較をせよ。 コードの比較:

- 3. 「乱数を使用して円をいくつか描く」において配列に色を追加したプログラムを作成せよ。 また、色の追加だけで動く理由も述べよ。 理由
- 4. 形の異なる3角形をランダムに表示するものを作成せよ

情報メディア専門ユニット I(演習) 第回 (5/23) ノートの内容

項目の最後の文字は次に示す項目の評価である。 \mathbf{y} (プログラム等のリスト)、説 (プログラム説明が手書きまたは印刷である)、図 (結果のキャプチャ画面)、 \mathbf{z} (考察が手書きまたは印刷である) を意味し、次の記号で評価を示す。 \mathbf{z} (不備またはない)、 \mathbf{z} (もう一息)、 \mathbf{z} (良い)、 \mathbf{z} (大変良い)

評価 項目	優れている	標準的	改良の余地あり
課題 1 (25%)	□サンプルプログラムに追加、 修正があり、リスト、解説、 実行時のキャプチャ画像、考 察が十分にある。 リ 説 図 考 □text 要素内に空白がないと エラーが起こることをコン ソールで確認。 図 考 □実行後の DOM ツリーの変 化を示す図がある。 図 考 □rect 要素の位置を変更した ときに起こる不具合が十分 指摘されている。 図 考	□プログラムがサンプルのままである。解説、キャプチャ画像の不足 (開始時、実行結果のどちらかがない)、考 □text 要素内に空白がないとエラールで確認しずらい (内のどものではいり)。 図 考 □実行後の DOM ツリーの変化を示す図 (開始ららかがない)がある。 図 考 □rect 要素の位置を変更したときに起こる不具の図が不備 (内の図がおいい。)。 図 考 □rect 要素の位置を変更したない。証拠の図が不備(内容が読めない)。 説 図 考	□プラムがサンプルのままである。解説、時、実行結果の不足(開始時、)、考がない。考がない。考がない。考がない。明からとなったとれてで確認していい。ではらいででではいい。ではらいででではいい。ではらいでではらい。ではいいが、といいが、といいが、ときに起こるではいい。ではない。にはいるができない。では、ないのではない。では、ないのでは、はないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ないのでは、ない。では、まれば、まれば、まれば、まれば、まれば、まれば、まれば、ない。では、まれば、まれば、まれば、まれば、まれば、まれば、まれば、まれば、まれば、まれば
課題 2 (25%)	□起動時にサイクロイド図形を描いている。ソースに十分な追加または修正がある。リ説図考 □正7角形の頂点位置を起いる。リ説図者 □サイクョンが実行なりまたは修正がある。リガンースにも追説図考 □Proccessingで描いたまたは修正がある。で描いた課題をSVGに移植していてのよっといる。リ説図を対している。リ説図表のソースコードと図を対ある。リ説図表のソースコードと図を対ある。リ説の形式によりに対していました。	□起動時にから。ソロインの表 「世界のリストの説すが少の大きないのである。」である。 「中の説さすが説している。」である。 「中の説さながいますが説している。」では、いる。 「中にはないのでは、いる。」では、いる。 「中にはないのでは、いる。」では、いる。 「中にはないがいます。」に、いる。 「中にはないがいます。」に、いるでは、いるのでは、いるでは、いるのでは、いいるでは、いいない。」に、いいないが、いるでは、いいないが、いるでは、いいないが、いるでは、いいないが、いるでは、いいないが、いるでは、いるでは、いるでは、いるでは、いるでは、いるでは、いるでは、いるでは	□起動時にけった。 回がボーース。 回がボーース。 のリストの説言る。である。 である。である。である。 ではいった。である。 ではいった。では、 ではいった。では、 ではいった。では、 ではいった。では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、

評価 項目	優れている	標準的	改良の余地あり
課題 3 (25%)	□コンソールで空でない独自の配列 (要素にいるなどいろないのがある。)を定義ている。説 考 □ 大き、 のがある。 説 表 □ た結果があり、プチャがある。 図 図 で空でを定義したがあり、プジェクトをいる。 説 オブジェクトをいる。 説 オブジェクトをいる。 説 オブジェクトをいるがありた結果があり、コンソールの画面の オャがある。 図 考	□配列の定義が単純である。 説 考 □length プロパティ、配列要 素の定義が単純である。 で変素を見れている。 要素をリストアとしてある。 で変素を操作した結果の画。 を必ずがチャとしてある。 でがチャとしてある。 である。 である。 □length プラ素の一へのアットをしない。 である。 □length プラットのでは、 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。	□配列の定義がサンプルとほとんど同じである。 説 考 □length プロパティ、配列要素の追加、定義時よスである。 で表した。 である。 である。 では、ですが、では、できない。 では、できない。 では、できない。 では、できない。 では、できない。 では、できない。 では、できない。 では、できない。 では、できない。 できない。 できないい。 できないい。 できないい。 できないい。 できないい。 できないいい できないいい できない できない できない できない できない
課題 4 (25%)	□関数群を利用して「ド」タッグで引のの DOM ので引のの DOM ので引のができまる (setAttribute()、getElementById などが全くない)。 可以 Di 放 で	□関数群してく」の 明製なででは、 のはないでは、 のはないでは、 のはないでは、 のはないでは、 のはないでは、 のはないでは、 のはないでは、 のはないでは、 のはないでは、 のは、 のは、 のは、 のは、 のは、 のは、 のは、 の	□関数群で () のの別数 () のののののののののののののののののののののののののののののののののの

情報メディア専門ユニット I(演習) 第回 (5/23) プレゼンテーション

この回の予習に基づいてグループ内で議論したことや工夫した点について報告する。

グループメンバー学籍番号

⇒π: /m:			
評価 項目	優れている	標準的	改良の余地あり
発表 技法 (20%)	□はっきりと丁寧に説明していた。 □発表の際に聴衆の反応を確かめていた。 □間の取り方がよかった。 □決められた時間に近い範囲で行った。 □機材の設定や準備がすぐできていた。	□説明が途切れることが 2,3 か所あった。 □声が少し大きすぎたり小さすぎた。 □発表の際に聴衆の方をあまり見ていないか反応を確かめていなかった。 □決められた発表時間を少し外れた。 □機材の設定や準備に少し時間がかかった。	□声が小さすぎて聞き取れなかった。 □聴衆のほうを全く見ない、反応を無視して行った。 □間がない発表であった。 □発表時間が極端に短い、または長すぎた。 □手元の資料や PC 画面を見て発表していた。 □機材の取り扱いや発表の準備がほとんどできていなかった。
発表 構成 (30%)	□初めに発表内容に関する概要があった。 □発表内容の順序に必然性があった □各構成の部分のバランスが良かった。 □図や表を使い簡潔にまとめられていた。 □引用は適切である。	□文字だけの発表で、概略が 少しつかみづらかった。 □図の内容が少し見づらかった。 □項目の内容の分量にばらつ きが少しあった。 □スライドごとに情報の詳し さが一部異なりすぎていた。 □ページの分量が発表時間に 対して少し足りない、また は多すぎた。	□ほとんどのスライドで情報 量が少なかった。 □一つのスライドに文字を詰 めすぎていた。 □図が大きすぎたまたは小さ すぎた。 □スライドごとに情報の詳し さが異なりすぎていた。 □スライドの内容が情報ごと にまとまっていなかった。
発表 内容 (50%)	□内容は適切であった。 □図の使い方がよかった。 □SVGファイルのデモが適切であった。 □内容が自分の言葉で述べられていた。 □それぞれの項目の関連性とバランスがよかった。 □発表したいことが十分に説明されていた。 □自分の意見が明確であった。	□内容のごく一部に説明不足なところがあった。 □図が少なくて説明が少しわかりずらかった。 □SVGファイルのデモの内容が少し足りなかった。 □内容に関して他からの引用が少し多かった。 □それぞれの項目の関連性に少し不十分なところがあった。 □発表内容の必要性の説明が少し足りなかった。	□内容が少なすぎる。 □図を使用していないのでわかりずらい。 □SVGファイルのデモの全くなかったか足りなかった。 □スライドの記述と発言内容に差がありすぎる。 □内容が多すぎて散漫である。 □内容が引用ばかりで自分でまとめた形跡がなかった。 □内容の説明が不十分であった。